

第2回新潟市バイオリサーチセンター指定管理者申請者評価会議 議事録

日 時：令和6年10月1日（火） 午前9時55分～

会 場：新潟市役所ふるまち庁舎5階 501会議室

評価委員：三ッ井委員、武石委員、早川委員、眞島委員

事務局：経済部次長兼産業政策・イノベーション推進課長、同課課長補佐、同課係長、他1名

傍聴者：0名

発言者	内 容
開 会	
事務局	<p>ただ今から新潟市バイオリサーチセンター指定管理者申請者評価会議を開催します。今回の会議開催にあたりまして、8月8日から1か月ほど、指定管理者の公募を行い、共同企業体1団体からご応募いただきました。</p> <p>本日はその「NBRP共同企業体」様の提案に対する評価を行っていただきます。本日の進め方ですが、応募団体より事業内容等について、25分程度プレゼンテーションをしていただき、その後、委員の皆様より応募団体の提案に対し、最大20分間ヒアリングを行っていただきます。</p> <p>プレゼンテーション開始から終了予定の25分が経過しましたらチャイムを1度鳴らしまして、応募団体には速やかにプレゼンテーションを締めさせていただくように促します。</p> <p>ヒアリング後の意見交換および採点につきましては、委員の自由な発言機会を確保するという観点から、非公開となります。応募団体にはご退席頂きます。</p> <p>次に、採点方法についてご説明いたします。お手元の「採点表」をご覧ください。採点については、まず、応募団体のプレゼンテーション・応募団体へのヒアリングを受け、評価項目毎に点数をつけていただきます。</p> <p>項目によって5点、10点等と配点が異なりますが、5段階または3段階評価でお願いいたします。100点満点中概ね6割以上が適正ラインとお考え下さい。</p> <p>また、本会議についてですが、指定管理者の選定過程等を公表するにあたり、会議録等を作成するため、会議の内容を、録音させていただきますのでご了承下さい。それでは、「NBRP共同企業体」様、プレゼンテーションを始めてください。</p>
NBRP共同企業体 プレゼンテーション（省略）	
NBRP共同企業体 質疑応答	
三ッ井委員	<p>2点ほどお伺いしたいことがあります。1点目が利用者確保の対策のところ、ホームページやチラシ、SNSで施設の情報発信をされているということで、私もホームページを拝見させていただきましたけども、この施設を利用されている方々の成果についての情報発信をどう思われているのかということが1点目です。</p> <p>2点目が、産学連携コーディネート事業についてはっきりと聞き取れなかったところがありますので、どういうことをやられているのか、今一度ご説明いただければと思います。</p>
申請者	まず、その成果をどういう風に出していくかについては、まだまだ十分ではないと

申請者	<p>感じているところです。もう少し積極的に成果について、例えば、臨床試験等でこのセンターに相談してくださった方が、こういう商品を出しましたとか、当然クライアント様にご了承いただいた中で、どんどん発信していきたいと考えております。入居者の方々についても、色々と技術的な相談を受けることがあります、ある程度秘密の部分がありますので、入居者様の了承を得て広めていきたいと考えております。</p> <p>センターを利用されている方々の中で、大企業様ではなく、中小企業の方々は新潟市のバイオセンターで研究しているということ、前面に出したいという希望もありますので、そういった思いを汲み取って、何かその入居者の方々にメリットがあるような形で答えていきたいという風には感じておりますので、今はすみません、ホームページもまだまだ十分でないということも認識しておりますので、これは早急に変えたいという風には考えています。</p> <p>次に、産官学連携については、今年に入って顧問の先生方を5名ほど増強しまして、現役を引退された方々ですが、非常に知識をお持ちである先生方を5名、会社の顧問でお迎えして、その先生方を前面に出して、「こういう技術を持った先生方がいるので、どうぞ相談に来てください。」というように積極的にアピールしたいと考えております。</p> <p>まだ、そこはうまく回っていないのが現状ですが、研究者の先生方はその分野では色々情報が集まってくるので、そういう先生方が大学を辞められても活躍できる場を当社が今後提供できれば、企業と大学、研究者、そしてそういう知識を持った専門家をうまく繋げることができるのではないかと考えており、力を入れてやっていきたいと考えております。</p>
眞島委員	<p>まず、計画書の中にありましたが、施設の利用率が平成29年から高い利用率を維持しているということで、これは非常に評価すべき取り組みなのだろうと考えています。振り返った時に、どういう努力があったのか、あとはどういう取り組みによって効果が出て、高い利用率を維持していくことができたのか感想を教えてください。</p>
申請者	<p>色々な要因があるのですが、1つは新潟市バイオリサーチセンターに隣接している新潟薬科大学について、大学の研究者の先生方と研究シーズがあるということが、第一ではないかと思えます。そのベースの中で、企業さんが来られて、大学の先生方と共同研究するベースがあったということ。</p> <p>それと、我々は物を売って商売するような業務はやっておりませんので、企業の研究課題に等に対して、研究者を紹介するような仕事を積極的にやっているものですから、そういったことで、大学の先生をご紹介したりすると、「共同研究をするためには、クローズドの研究施設があるといいよね。」という話の中で、施設を借りるケースがあります。</p> <p>もう1つは、中小企業さんについては、新潟市バイオリサーチセンターで研究をしているということが、企業のイメージアップに繋がるってということもあると思えます。特に、中小企業さんは、入居を足がかりに新しい製品を開発しようとしていますし、あとは隣接している薬科大学の高額機械を使うために、年間40万程度の費用を払えば使えるというメリットがあるので、そういったものを上手く利用して、バイオリサーチセンターの活用価値を見出して、我々もそれをご紹介するというところが上</p>

<p>申請者</p>	<p>手く回っている要因と考えております。</p> <p>付け加えますと、あくまでセンター入居については新潟薬科大学と立地が近い ため、そこで有用性はありますが、当社としては薬科大だけでなく、新潟大学とか長 岡技科大とか、研究者の先生方は皆さん専門家ですらっしゃるので、そういう先生方 と繋ぐための拠点として、新潟市バイオリサーチセンターに来るといろんな先生方と パイプが持てるってところで、プラスアルファの価値を見出していければ、入居 ができなくても、いろんなことを発信していく。それがセンターに入居しなくても、 新潟市バイオリサーチセンターの利用価値につながっていくと考えております。</p> <p>新潟薬科大学だけではなく 県内の大学の専門家の先生方とつなぐ、そのためには、 我々はあちらこちらの大学の先生方とこれからもパイプを持って、広げていきたいと 考えております。</p>
<p>眞島委員</p>	<p>今回の募集から産学官連携の強化という部分が入ったわけで、先ほどのご説明では これからという部分もまだあるということですが、まさしく新潟薬科大学とは立地的 な関係もあって、非常にいい関係と言いますか、円滑な関係を結んで業務を進めてい るという風に理解していますが、先ほど後半にお話いただいたように、新潟薬科大 学ではなく、県内市内にもいくつかの大学がありますので、ぜひそことの連携ってい うのは強化していただきたい</p> <p>その時に、ご説明の中では各大学の先生方との連携という話がありましたが、各大 学とも産学官連携の窓口的な業務を行っている職員が必ずおりますので、そういった ところを足掛かりに一層の連携を進めていただければと思います。</p> <p>そういう意味で、県内全ての大学というわけではないのですが、産学官連携の窓口 担当とこれまで連携があったのかどうか。今後、産学官連携窓口へのアプローチはど のように考えているか教えてください。</p>
<p>申請者</p>	<p>私も色々な大学を回らせていただいて、2年ぐらい前から新潟大学のワーキング スペースに出入りさせていただいて、医学系の研究者の先生方とパイプを持ちたいな と。動いている中で、なかなか広がりやが掴めない大学もありまして、そういったと ころについては、どうやって攻めればいいのかという感想はありますが、良いこと として、コーディネーターがいらっちゃって、その方とパイプが持てるような環境に なりつつあります。</p> <p>新潟大学とはコーディネーターの方も何度かおいでいただいて、情報交換をしまし たし、長岡技科大もコーディネーターの方とパイプを持つことができましたので、直 接先生と繋がるという手もあるのですが、やはりコーディネーターと一緒に進め ることが1番効率的と最近よく分かってきました。</p> <p>今後、大学の研究者の先生は皆さんお忙しいので、コーディネーターの方とうまく 連携を取って、そことの情報交換、要は、「こういうことで困っているけれど、この 課題に対して専門の先生いらっしゃいますかね。」といった話は、研究者に聞くより もコーディネーターに聞いた方が非常にいいので、コーディネーターの方と上手く連 携を取っていきたくて強く思っております。</p>
<p>眞島委員</p>	<p>提出いただいた資料を見る限り、財務諸表を見るとかなり厳しい状況は否めないと 感じています。その中で言うと、ここで言う自主事業をいかに円滑に実施していくか</p>

真島委員	<p>ということが、経営基盤の安定に繋がっていくのだらうと考えられます。その時に、機能性食品の評価事業が大きな柱になっていくと思いますけれども、その現状、または今後の見通しについてお聞きしたいのが1点目です。</p> <p>もう1点が、そのエビデンスを得るだけではなくて、機能性表示食品やトクホ等々、申請行為があるわけですので、その辺のサポート、コンサルティング活動の部分は、今後、力を入れていく傾向があるのかどうかお聞きします。</p>
申請者	<p>まず、経営的などところについては、コロナ禍もあって業績が下がってきたということは否めないところです。当社の役員、株主も含めて、新潟県内で唯一、食品の臨床試験を20年間やってきたっていうこともあり、これを潰してはいけないという思いが役員含め私も強く感じておりますので、ここは絶対広げていきたいと考えております。</p> <p>8月に、沖縄県の科学振興財団の方から、彼らも沖縄県で機能性食品の評価をする仕掛けを作りたいということで、当社に見学に来られて、各地域でそういう動きがあると思っております。まずは経営的な部分で、会社の人数が多くないので、最低限のスタッフで、なおかつスキルの高いスタッフが業務をこなしている状態なので、これで固定費としては最低ラインです。ここから自分たちができる仕事をこれから広げていくけれども、人員的にも厳しい面もありますので、外部の力を借りようと考えております。</p> <p>私自身も機能性表示食品の制度ができてから、申請に関して、非常に様々な方からできないのかと言われておりまして、私も検討する上で色々勉強しましたが、外部の方の力を、専門家の力を借りないといけないというところもありまして、東京の企業で機能性表示食品の申請をサポートする会社が数社ありますが、そういったことを当社と一緒にやりませんかというようなオファーを最近いただいております。当面はそういう外部の力を借りながら、機能性表示食品の申請の部分で当社を窓口にして東京の会社にお問い合わせするような形を取っていききたいなど。その作業をやりながらノウハウを貯めていき、なおかつ売上げが上がれば、技術者を雇用するという形を検討したいと思っております。</p> <p>自分たちでなんでもかんでもやろうとすると今の人員体制では厳しいので、今、機能性表示の業界も色々な組織と手を組もうということで、模索しているようで、私の方にも2、3社からお声がけをいただいておりますので、今後その会社とどうやって手を組んでいくかを模索して、来年にはそれができますよという風にしたいと考えております。</p>
早川委員	<p>今の質問に関連しますが、第17期以降5年間、当期純損失が赤字になっておりますが、経費が増えたのか、あるいは成分分析などの依頼が極端に少なかったのか、そういった原因とその背景について教えてください。</p>
申請者	<p>端的に言うと、仕事と抱えているスタッフを含めたそのバランスが悪いという風には私は思っておりますが、積極的に仕事を取りに行かないといけないっていうところで、力を入れなければいけなかったのだと考えています。今の状態は、仕事に見合った人数がいけない感じですが、今はそれを払拭して、人数的には少ないのですが、それ</p>

申請者	で業務をこなせるような状態になっていっていると感じております。
武石委員	<p>私も今の質問に関連しますが、財務のところが非常に気になりまして、利益剰余金がマイナス1億9,100万円ということなので、おそらく設立当初からずっと赤字体質で、ほぼほぼ黒字になることはなかったのではないかと思うのですが、その場合に、今回は増資をしていますけれども、それでも純資産は500万円なので、今年、前期と同じぐらい赤字が出てしまうとまた債務超過になります。</p> <p>その時に、出資を入れてくれそうな会社があるかどうかと、その確度ですね。今回のように、また出資していただけるかどうかというところと、あと、足元の令和6年度の計画ですと、プラス350万ほど自主事業で黒字が出る計画ですけれども、現在10月になりまして、半分ぐらい過ぎた中で足元の計画でどれぐらい達成しているのかをお聞かせください。</p>
申請者	<p>まず、最初の出資が見込めるかどうかという点ですが、今のところは、新たに出資いただくということは多分厳しいと思います。ですが、新潟では当社でしか臨床試験を実施しておりませんので、そこに対して魅力を感じる企業があれば、出資に応じてくれる可能性はあるのではないかと考えています。魅力のある会社にしなければいけないという使命もあるので、そこについては今後の課題とさせていただきたいです。</p> <p>また、去年は私を含めて4人体制でしたが、今年は3人体制でやりながら、今臨床試験を2件ご予約いただいております。去年は1件しかありませんでしたが、今年はまだもう2件、年度内に実施予定の計画です。その他、このままではもう1件臨床試験がないと厳しいというところではあるのですが、今そこについては何件か引き合い等々ありますので、それが具体的になれば大丈夫ですと言えるのですが、今のところ、臨床試験が去年1件のところ、今年2件予約を入れていただいて、そのうち1件はも契約いただいて、もう1件は必ず3月までに実施したいというオファーをいただいておりますので、確約いただいております。</p> <p>その他、年度末に関して臨床試験以外の仕事も出てきそうなので、そこは確実に取っていきます。</p>
事務局	質疑応答終了
意見交換及び採点（以下、非公開）	